授業研究

歴史

資料を活用し、視覚的に世界と日本のつながりを大観する

―外国から影響を受けた、新たな国づくりを学ぶ―

東京都　中野区立明和中学校　主任教諭　**長井 利光**

図１　『中学校社会科地図』p.35～36「①東アジアと日本の交流の歴史―大陸から見た日本―」

図２　『社会科 中学生の歴史』p.44～45「世界とのつながりを考えよう～地図編①～ ８世紀ごろの世界」

図３　『社会科 中学生の歴史』p.36～37「タイムトラベル③　奈良時代を眺めてみよう（８世紀ごろのある場面）」

図４　『社会科 中学生の歴史』p.50～51「世界とのつながりを考えよう～イラスト編①～ 唐の都 長安」

1　はじめに

令和７年度、現行学習指導要領が導入されて４年が経ち、新たに教科書が改訂された。今回は、令和７年度版帝国書院『社会科 中学生の歴史』（以下、教科書）と『中学校社会科地図』（以下、地図帳）から４つの図を活用して、古代の学習から、視覚的に世界と日本のつながりを大観する学習を試みたい。また、この単元では「東アジアから影響を受けた古代の日本が、どのようにして新たな国づくりを行ったのか」に迫る、「単元を貫く問い」を立てている。

2　外国との関係を踏まえて、「単元を貫く問い」を立てる

第２章「古代国家の成立と東アジア」について、教科書p.36～51の第３節「中国にならった国家づくり」を内容のまとまりとして「単元を貫く問い」を立てた。歴史的分野において、「単元を貫く問い」を立てる際には、現在の私たちと過去をつなぐことが必要であり、歴史を学ぶ

うえで非常に重要であると考える。この単元では、東アジアからの影響を受けながら、日本の新たな国づくりがなされたことを理解させる目的で、学習計画（４時間扱い）を次のように提案したい。

【単元を貫く問い】
東アジアから影響を受けながら、古代の日本はどのような国家を築こうとしたのだろうか。

表　学習計画

時	主な学習内容
1	○大陸の影響を受けた天平文化 ・なぜ、天平文化は外国の影響を受けているのだろうか。　（図１・図２使用）
2	○ヤマト王権と仏教伝来 ・隋との関係を踏まえ、聖徳太子（厩戸王）と蘇我氏は、どのような国を目指したのだろうか。
3	○揺れ動くアジアと倭国 ・白村江の戦いの後、中大兄皇子（のちの天智天皇）はどのような国を目指したのだろうか。（時代の転換） ・天武天皇はなぜ「大王」から「天皇」へ、「倭」から「日本」へ変えたのだろうか。
4	○律令国家での暮らし ・奈良時代の土地と税の制度にはどのような特色があったのだろうか。（図３使用） ・奈良時代の平城京と唐の長安との共通点は何だろうか。また、外国の影響を受けているものは何だろうか。（図４使用）

3 「文化の位置づけ」を工夫する

飛鳥時代から奈良時代は、東アジアからの影響を強く受けていることから、単元の最初に奈良時代の国際色豊かな天平文化の学習を行うことを試みる。ここでは、小学校での学習を生かしながら、「なぜ、天平文化が国際色豊かなのか」「なぜ、鑑真は日本にやってきたのだろうか」など、外国との関係を意識した単元の導入を行う。

単元構成を工夫することで、事前に知っていることや、単元の最初に出てきた疑問を、その後の古代の学習に向けた動機づけに活用したい。そして設定した「単元を貫く問い」が、外国との影響を強く受けながら、律令国家が形成されたことに迫りたい。

この地図帳は、通常の地図帳の役割にプラスして、歴史要素が掲載されている。学習計画・１時では、導入に**図１「東アジアと日本の交流の歴史」**を活用する。本図は、地理的分野のアジア州の学習で、すでに活用されている可能性が高い。遣唐使が唐の長安から出発し、北路は朝鮮半島、南路は東シナ海を経由して日本に到着したことが読み取れる。また鑑真（教科書p.48『鑑真』参照）の船は、南路を通り奄美大島から種子島を経由したことも読み取れる。また、**図１**の特徴として、ユーラシア大陸側から日本を見せることで、さまざまな物が大陸から伝わり、日本が東アジアからの影響を強く受けていたことをうかがうことができる。

さらに１時では、**図５**を示し、五絃琵琶が、正倉院に伝わる宝物の一つであることや、施されたデザインから、「らくだやなつめやしは、どこの地域で見られる光景だろう」と発問する。地理的分野でアジア州の学習を終えているのであれば、乾燥帯の西アジアを想像することが可能だろう。では、なぜ西アジアなのか。**図２「８世紀ごろの世界」**を活用する。

当時の唐の長安が国際都市であり、シルクロードを経由して遠く西アジア、ローマへとつながっていたことを読み取らせる。さらに、アフリカや西アジアにはイスラム帝国があり、海の道を通って、インドや東南アジアや中国まで、貿易が盛んであったことから、この五絃琵琶がデザインされた理由を考えることはできるだろう。このように、この単元の導入で天平文化を扱うことで、生徒はこれから学ぶことに興味を持ち、次のような予測や問いを立てると想定できる。

図５　『社会科 中学生の歴史』p.46
「螺鈿紫檀五絃琵琶の拡大図と全体像」

・なぜ、『古事記』や『日本書紀』のような歴史書が作られたのだろうか。
・なぜ、聖武天皇は大仏を建てたのだろうか。
・日本が、中国などの外国から影響を受けたものは何だろうか。

これまでの小学校の学習を生かしながら、日本に仏教が伝来し大仏が建立され、鑑真が招かれた意味を考えるきっかけを考えさせる。また、この後に学習する律令国家のしくみがどのように形成されたのか、単元を貫く問い「東アジアの影響を受けながら、古代の日本はどのような国家を築こうとしたのだろうか」に迫っていく。

4 「東アジアの関係」を推移でとらえ、時代の転換で考えさせる学習

学習計画の２時・３時では、聖徳太子と天智天皇による「外国との関係」の推移をとらえる。２時で教科書p.39「6 ６世紀末～７世紀初めの東アジア」を確認し、蘇我氏と聖徳太子の国づくりが東アジアからの影響を受けていたことと仏教の伝来についてとらえさせる。３時では、教科書p.41「4 ７世紀の東アジア」を確認し、中国では隋から唐に変わり、朝鮮半島の百済に倭国が援軍を送り「白村江の戦い」が起こっていることがわかる。二つの東アジアの地図を比較することで、東アジアの情勢の変化を読み取り、倭国（日本）にどのような影響を与えたのかを考えさせる。また、「白村江の戦い」の後に即位した天智天皇がその後、どのような選択・判断を行ったのかを構想し、この後にどのような国づくりが行われたのかを考えさせる。このように「白村江の戦い」を「時代の転換」の様子ととらえ、日本で起こった諸問題にどのように対応したのか考えさせる。

教科書p.40「1 大宰府周辺の様子」を使い、「白村江の戦い」で大敗した倭国が、防備を固めた後、どのような国づくり目指したのかを考え、この授業の問いを「白村江の戦いの後、天智天皇はどのような国を目指したのだろうか」と立てたい。その後の天武天皇が行った政治とあわせて、生徒に気付かせたいポイントを次のとおり整理した。

・守りを固めるために大宰府や山城がつくられた。
・全国の戸籍をつくった。
・遣唐使が派遣された。
・大宝律令をつくり、律令国家のしくみを定めた。

5 奈良時代の「律令国家のくらし」を視覚化し、「平城京」と「唐の都 長安」の共通点や当時の外国との関係を探る

４時で平城京を中心とした奈良時代の政治について考える。**図３「タイムトラベル③ 奈良時代を眺めてみよう」**を活用する。まず、**図３**から高官である国司が視察に訪れ、下位の役人が出迎えている様子（**図６左**）から、律令国家のしくみについて考えさせる。また、道が条理に沿って直線的に造られている（**図６右**）ことから、奈良時都代の都市の造りについても考えさせる。

次に**図４「唐の都 長安」**を、これまでの学習から、奈良時代の平城京との共通点やその理由を考えさせる。ここで、考えさせるポイントは、以下の２点である。

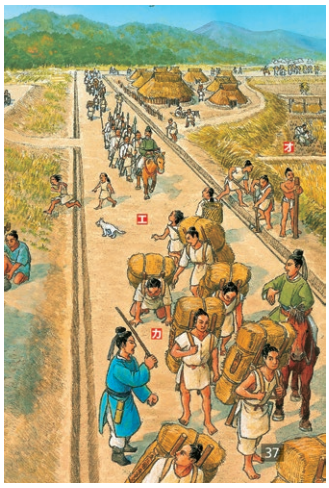

図６　『社会科 中学生の歴史』p.36～37「タイムトラベル③　奈良時代を眺めてみよう（８世紀ごろのある場面）」（部分）

①日本と同じものや、関連が深いものは何か。
②外国の影響を受けているものは何か。

４時での問いを「奈良時代の平城京と唐の長安の共通点は何だろうか。また、外国の影響を受けているものは何だろうか」に設定して、p.42「3 平城京」を参考に、平城京が唐の都を手本につくられたことに気付かせる。また、**図４**にはQRコンテンツがあり、さまざまな仕掛けが施されたイラストに説明が付されている（**図７**）。ここでは、奈良時代の「平城京」と**図７「世界とのつながりを考えよう　唐の都 長安」**とを比較し、平城京が唐の長安を手本にしたことを読み取らせる。また、国際都市である長安が、**図２「８世紀ごろの世界」**から、シルクロードを経由してヨーロッパ、海の道を経由してイスラム帝国とつながっていることに気付かせたい。また**図７**では、長安が碁盤目状の町になっており、町の向こうに宮殿が見えている。１時の天平文化で扱った**図５「螺鈿紫檀五絃琵琶の拡大図と全体像」**と関連づけて、町の中にらくだや馬に乗っている肌を隠した女性がいることから、長安が外国との関係が深く、同時に奈良時代も遣唐使を通して、その影響を受けていたことが読み取ることができる。

図７　『社会科 中学生の歴史』p.50～51QRコンテンツ「世界とのつながりを考えよう～イラスト編①～ 唐の都 長安」（解説あり表示時・部分）

6 まとめ

今回は、教科書の４枚の図を活用し、古代の学習において視覚的に世界と日本とのつながりを大観させる授業を提案した。東アジアから影響を受けながら、白村江の戦いを転換として、新たな国づくりを目指して、律令国家を形成していった流れについて理解させることが可能と考える。また、文化の学習を単元の導入に位置づけ、外国との関係を意識しながら、その後の授業を展開し、時代の転換の学習を転機として、「単元を貫く問い」に迫ることを目指した。最後に、令和６年度までの同様の実践において生徒が記述した「単元を貫く問い」の振り返りを紹介する。

古代の日本は外国のような進んだ政治や安定した国家を築こうとして外国に認められるような国にしたかった。また、シルクロードを通じて東アジアよりも遠い国からも伝わるようになり、ほかの国々のよい所を学ぶようになった。

生徒は、東アジアの変化を受けながら、倭国から日本へ、律令国家としてのしくみを整え、国際色豊かな文化を形成していったことを理解することができると考える。